

令和元年度第3回北方四島交流訪問事業（後継者：国後）参加報告書

県立広島大学大学院
西村 圭織

私は、令和元年8月23日から26日まで北方領土の国後島へビザなし訪問をさせていただきました。最初に、なぜ「ビザなし」で訪問するのかを説明します。

第2次世界大戦後、北方領土はロシアに不法占拠されており、日本国民がロシアのビザを取得して北方領土に渡航することは、北方領土がロシアの領土であることを認めることにつながるからです。そのため、北方領土の入域は、日露間政府で認められた「ビザなし」訪問事業に限定されています。

そして、私がこの事業に参加したきっかけは、北方領土の中高生が広島に訪問した際に広島市内の観光ガイドを行い、北方領土の学生と交流したことからです。この事業に参加するまで北方領土問題についてほとんど興味をもつことはありませんでしたが、北方領土の学生と交流をもったことで北方領土について知りたいと思うようになり、北方領土の歴史、現在はどのような状況でどんな協議が行われているのかを調べるようになりました。

現在もまだ北方領土問題は解決していないにも関わらず、元島民の高齢化などもあり徐々に北方領土問題が風化されつつあるように思います。

そこで、北方領土問題を知らない方にも興味や関心を持ってもらうために、今回の北方領土訪問で経験したことを報告したいと思います。



北方領土の学生と縮景園を観光時の様子

【出発前日】

根室市にある「北方四島交流センター・二ホロ」で、訪問団の団結式・事前研修会に参加し、自己紹介や意見交流会、グループワークを行いました。

【出発当日】

根室港岸港において出発式を行い、「えとぴりか」という旅客船に乗り、たくさんの方に「行ってらっしゃーい」と声をかけられながら見送られ出港しました。船の中では、食事をしたり、北方領土の歴史、ロシア語の講義を受け過ごしていました。



出発前 旅客船えとぴりかの前にて

国後島付近で船が停泊するとロシア側の担当者が乗り込んで手続きが始まり、1時間くらいすると上陸用の小さい船に乗って国後島に向かいました。

国後島に到着後、入域手続きを行い、すぐに国後島文化会館にて「国後島代表者交流会」に参加しました。市長さんが島の現状説明や歓迎の言葉を述べ、記念品の交換が行われるなどとても友好的な雰囲気でした。

その後「友好の家」に向かい部屋が振り分けられました。6人部屋だったので、みんなで仲良くわいわいと話してとても楽しく過ごせました。



「友好の家」の部屋での様子

【友好の家での食事】

「友好の家」では北方領土に住んでいるロシアの学生が食事の準備をしてくれました。用意してくれたロシア料理はとてもおいしかったです。夜は参加者が自己紹介をし、北方領土問題の取り組み、実際に北方領土へ来てみて感じたことなどを話したりと楽しく過ごしていました。



「友好の家」での昼食



「友好の家」での歓迎会

【施設視察・日本人墓地墓参・観光】

国後島に到着して感じたことは、カラフルな建物がたくさん建っており、日本のような雰囲気は全くないなということでした。

施設視察ではここ数年で完成したばかりのスポーツ施設や幼稚園に行きました。幼稚園には100人程度の園児が通っているとのことでしたが、ロシア政府の政策により移住するロシア人が増えているため待機児童が増えていると説明がありました。

スポーツ施設においても最新の機械やプールなどの設備があり、住民の健康を維持するために取り組みしているとのことでした。周りを見渡してみても建設中の建物や住宅などがあちこちにあり、ロシア政府が北方四島の開発のために力を入れているように感じました。

ロシア化が進んでいる国後島を目の当たりにしましたが、日本人の祖先の墓地へ墓参や博物館の見学時には日本人が国後島に生活していたこと、国後島が日本であることを実感することができました。

古釜布にある日本人の墓参では、昭和の初期に建てたと思われるお墓がありました。お墓の一部は倒れかかり、周りには草が生えており、日本人の祖先のお墓が手入れをされていないことに、私はすごく残念で悲しい気持ちになりました。

博物館では、ロシアの館長が北方領土の自然、歴史、日本人の食器などの展示品を案内してくれました。終戦直後、北方領土で暮らしていた日本人の1万7000人全員が強制的に島からの引き上げを余儀なくされたため、また北方領土に帰ってきた時に使用できるようにと食器や高価なものは土に埋めたそうです。それをロシア人が掘り起こして博物館に展示しているとのことでした。国後島に日本人がいたということを感じたと同時に、徐々に国後島がロシア化されて上書きされていくような感覚になりました。

その後、浜辺に向かいろうそく岩を見に行きました。海岸にそびえたつろうそくのような大きな岩は人気の観光スポットです。国後島の自然を感じながら写真を撮ったり海に入ったり楽しみました。



日本人のお墓の墓参



博物館展示品の見学



北方領土のお店



ろうそく岩観光

【北方領土に住んでいるロシア人との交流】

現地の方との交流会では、現地の人々が温かく訪問を受け入れてくださいました。

図書館視察では日本語の勉強会をしているロシアの方とお話をさせていただき、日本文学に興味があるため日本語の勉強をしている方もいました。「いつか日本に行きたいけれど、北方領土に住んでいると自由に日本に行けないからとても残念だ」と言った一言がとても印象に残っています。

絵画交流会では、絵画のロシアの先生に教えてもらいながら、子供から大人まで幅広い世代の住民と一緒に絵を書きました。その後、国後島の観光業を発展させるためには何が必要かというテーマでグループワークを行いました。発展させるためにインフラの投資や日本の技術を取り入れてはどうかという話になり、そうすると観光業も発展するには日本と北方領土の行き来が自由になることが必要だという意見があがりました。

ホームビジットでは、家族5人暮らしのお宅に訪問しました。ピロシキ、ボルシチ、クレープ生地に野菜や肉、刺身をくるんだ料理をごちそうさせていただきました。高校生の男の子、中学生の女の子、3歳の女の子がいてとても賑やかで、ゲームなどをして楽しく過ごし、とても仲良くなり良い思い出ができました。「連絡を取るすべがなくてまた会えるかわからないけれど、お互いこれからも元気で過ごせるように祈っています」と声をかけていただき、抱きしめあってお別れをしました。



図書館にて日本語の勉強クラブの方と交流



絵画交流会



ホームビジットでのロシア料理



絵画の先生と学生と一緒に記念撮影

【北方四島交流訪問事業に参加した感想】

実際、国後島の現状をみてみると確実にロシア化されているように思いました。また、現在は北方領土に占領したロシア人の 2 世 3 世が島の生活の中心を担う世代になり、生まれてきた時からこの島に住んでいるので、ここが故郷になっています。北方領土のロシア人住民は日本人に好意的で、領土問題があることは当然わかっていますが、ここを日本に返すということは実感がないように感じました。

そのため、日本に北方領土が返還された時、そこに住んでいるロシア人を追い出すということにはならず、お互いの文化を理解しあって共存しあうことが必要になるのではないかなと思いました。そういう中で領土問題を解決していくには、安全保障などの日本とロシアの政府間の問題と同時に、住民の意識の問題もとても重要になってくると思います。これからも政府の協力を受けながら相互の交流訪問事業を継続し、その交流のなかでロシア島民と日本人が共同で経済活動を行うなど民間レベルでの活発な活動が必要になると思います。

戦後 75 年余り経ち、元島民が終戦時の 3 分の 1 に減り、平均年齢は 86 歳に近づいています。それにもかかわらず、北方領土の問題はまだ解決していません。

私は、戦後にソ連が北方領土を不法占拠した事実、日本人の元島民の思いを風化させたくないです。そのため、北方領土の歴史、現在北方領土がどのような状況になっているかを多くの人に知ってもらい関心を持ってもらいたいと思っています。今回、私が国後島で経験したことをお伝えすることによって、若い世代にも北方領土の問題に関心を持ってもらい、何か考えるきっかけになればいいなと思います。